

# 業界2019年の見通し

## 会員企業 景気動向アンケートより

IoT革命の真ただ中のいま、エッジコンピューティングへのシフト、ブロックチェーンやハプティクスといった新たなテクノロジーの活用など、2018年もIoTは着実に進化した。そうした流れを受け幕を開けた新年、消費者市場や商業、医療、産業市場に広がっていくに違いない。業界のさらなる向上が期待されるなか。会員各社はどうか飛躍に向かおうとするのか。「景気動向アンケート調査」から企業の現状、業界予測を展望する。

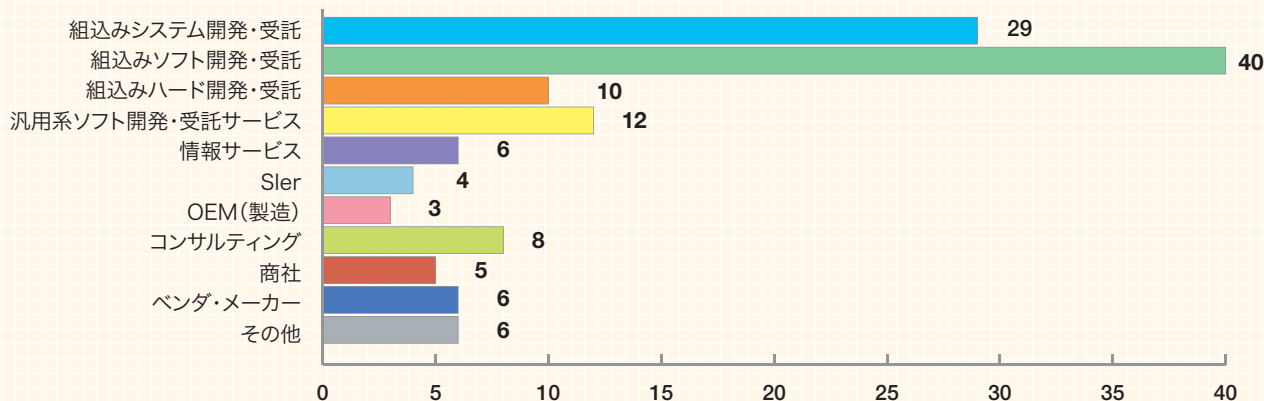


表1 回答企業の主たる事業(複数回答)

### Q. 2018年の貴社の業績はいかがでしたか？

「非常に良かった」「良かった」の合計が過半数(51%)だった前回には及ばないものの、「普通」が7%増加し、全体的には好調が維持できたと受け取れそうだ。

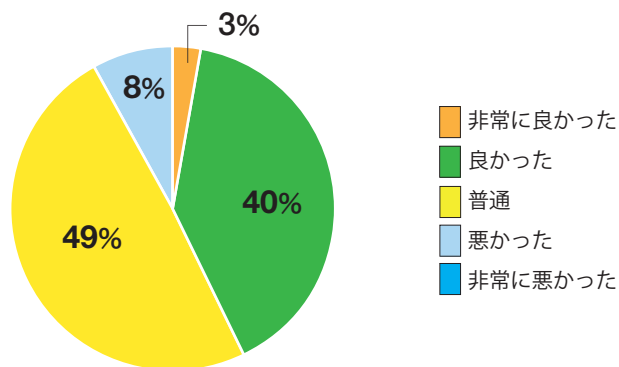


図1 2018年の貴社の業績はいかがでしたか？

### Q. 前年と比較して2018年の業績は？

前回過半数(58%)だった「非常に良かった」「良かった」は、割合が減少したもののほぼ半数を維持。逆に、前回ゼロだった「非常に悪かった」の回答もあった。

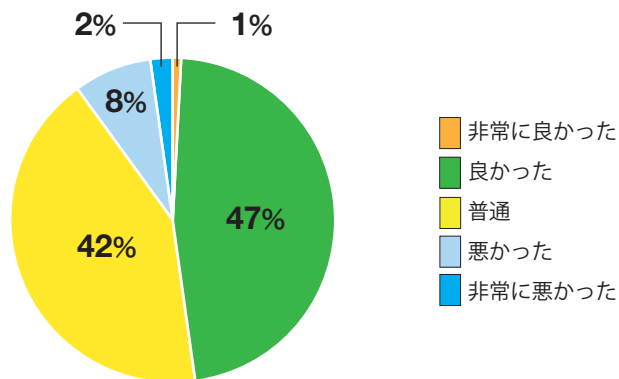


図2 前年と比較して2018年の業績は？

**Q. 2018年業績の伸び率は？**

3割が“二桁成長”と回答。「9～0%」を加えると6割となった。8割超だった前回からは減少したが、さらにグンと成長した企業が多かったことがうかがえる。逆にマイナスは13%と前回(4%)より9%増えた。大幅な伸長が多かった前年の反動があるのかもしれない。

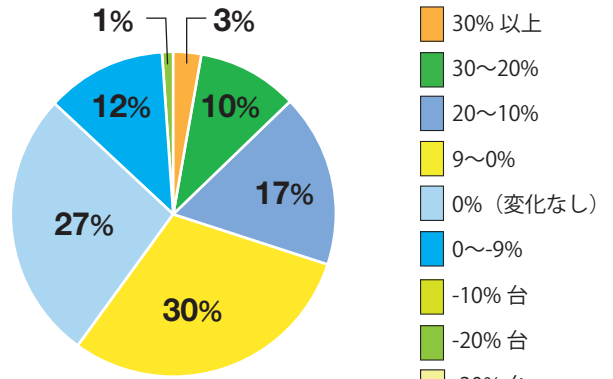


図3 2018年業績の伸び率は？

**Q. 業績に貢献した部門は？**

業績に貢献、または補完した部門を問う質問では、各部門とも回答のバランスは前回、前々回とほぼ一致している。

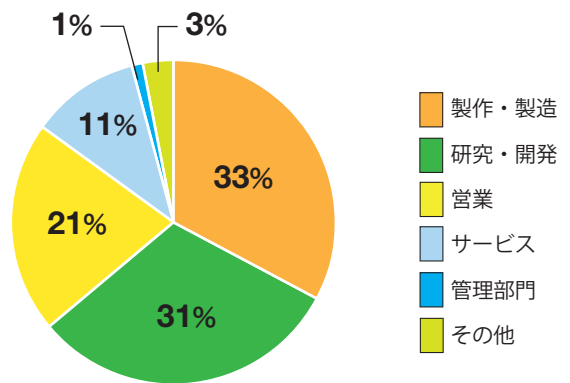


図4 業績に貢献した部門は？

**Q. 今後補強したい部門は？**

補強部門に対する回答も、各部門とも前回と同様のバランスに。数年連続で最上位となっている「研究・開発」は前回からさらに5%増えている。

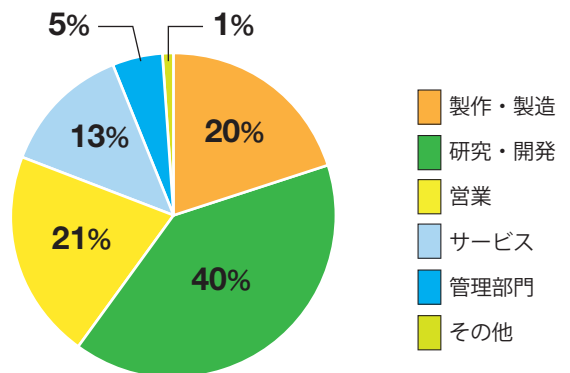


図5 今後補強したい部門は？

**Q. 円安や株価、また国際情勢による影響は？**

円安・円高、株価等の影響を受けたとする企業はごくわずかに。9割以上が影響なしという回答だった。

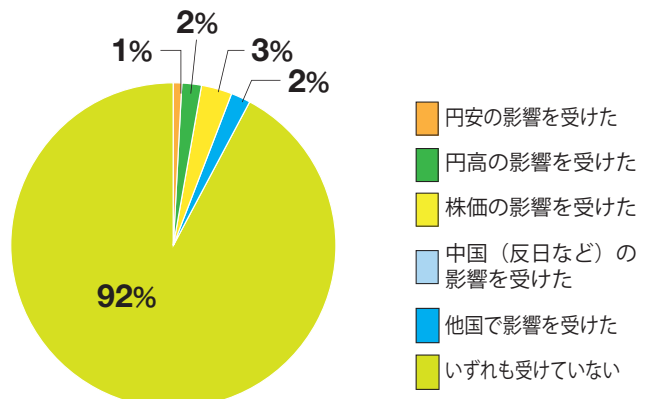


図6 円安や株価、国際情勢による影響を直接受けましたか？

**Q. 技術者の雇用状況は？**

技術者の雇用状況は、「不足(積極的に採用していく)」が前回の90%から減少したものの今回も回答が集中。前回ゼロだった「過剰」に回答者があり、「適正」も3%から10%に増加。前回よりも幾分解消されてきたようだ。

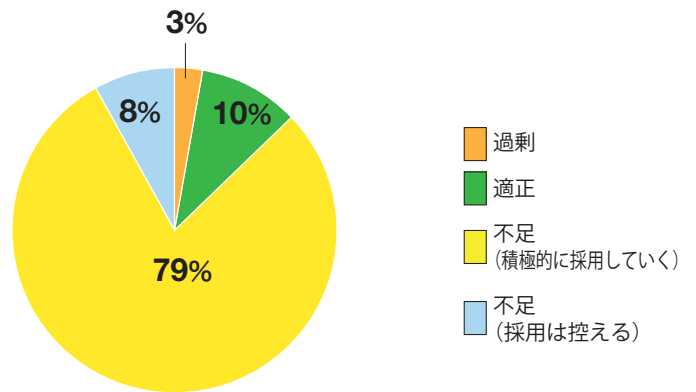


図7 技術者の雇用状況は？

**Q. 2019年組込みシステム関係の景況は？**

「非常に良い」がゼロ回答となったが(前回7%)、「良い」とする回答が前回に続けて半数を超えた。理由として「車載関連が好調」「要員不足は続くが引き合い案件は増加する」「受注状況が好調のため」「AI、自動車、4K8K関連の需要が見込める」「企業設備投資が活況のため」「関連業種の好況が予想されるため」「長期案件が多い」などが挙げられた。なお「普通」「悪い」には「車系以外があまり期待できない」「オートモティブビジネスに傾倒しすぎ、業界全体の成長に貢献しない」といった意見も見られた。

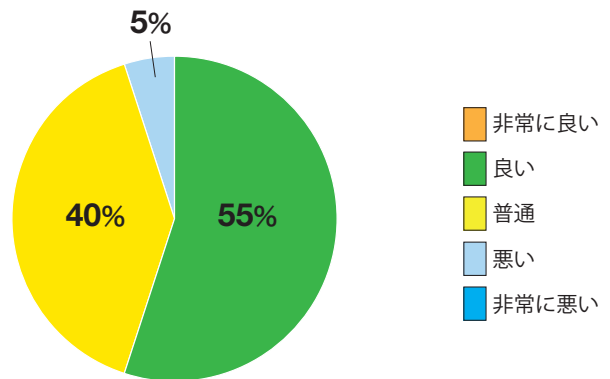


図8 2019年組込みシステム関係の景況は？

**Q. 2019年の貴社の業績は？**

自社の業績では「非常に良い」とする回答はゼロだったが、「良い」の回答は過半数となった。「普通」との回答は横ばいに。前回ゼロだった「悪い」とする回答者もあった。

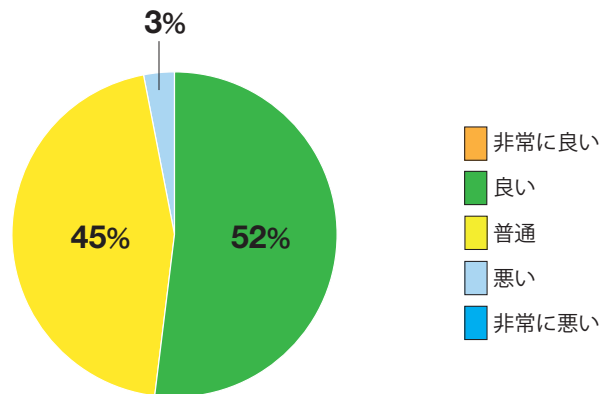


図9 2019年の貴社の業績は？

**Q. 貴社が成長を期待する分野は？**

新たに項目として加わった「情報通信」に回答が集まったのが特徴的。前回より回答が増えた分野は「航空、宇宙」「ロボティクス」「農業、バイオ」「精密機械、電子機器」。その他の回答には「自動積算機」「カメラ、画像、映像」「公共系」などが挙げられた。

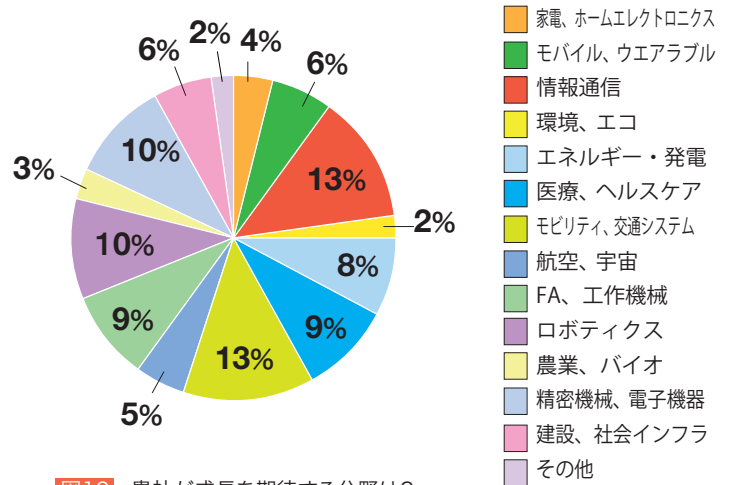


図10 貴社が成長を期待する分野は？

**Q. 2019年貴社にとってのキーワードは？**

多くの企業が成長を期待する年になりそうだが、自社にとってのキーワードは何か。キーテクノロジーや応用分野関連、自社の環境や意識改善関連に分けて取り上げてみたい。

■キーテクノロジー、応用分野

- IoT
- センサー
- カーエレクトロニクス
- 5G
- AI
- 医療
- GNSS
- リンケージ
- 検査装置
- 画像処理
- スマートスピーカー
- 映像
- 風力発電
- セキュリティサービス
- デジタルトランスフォーメーション

■自社の環境改善・意識改善

- 人材確保、技術力向上
- IoTシステムの開発実績
- 第二創業
- 創生・チャレンジ
- ユーザの立場に立った開発
- 事業構造改革
- 感動体験
- インバウンド需要の動向
- AIビジネスへの挑戦
- 組織の基礎固め
- ことづくり
- チーム力と働き方改革
- 人材の育成
- 世代交代

**ここ10年を振り返って**

業績については2013年以降徐々に回復しながらここ3年くらいでピークを迎えている。じわじわと景気が上昇している世間の雰囲気と一致しているともいえる。

興味深いのは技術者の雇用についての設問。景気回復基調に乗っていない2012年時点ですでに不足感が表れている。その後業績が良くなるにつれ、不足しつつも控えていた採用を積極的に行うという回答が増えてくるが、景気回復に確信が持てない段階(13年~15年)で、既に積極採用の意思が急カーブで上昇した。

JASA会員企業は景気回復の実感が生まれる前に、人材不足への対応を始めるという形で近未来の業績向上を見据えているようだ。

組込み業界における人材の大切さが改めて実感できる。